

2019年10月1日
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構

JADAアジア・オセアニア国際アンチ・ドーピング・セミナーを開催

JADAは、2019年9月24日（火）～26日（木）に「アジア・オセアニア国際アンチ・ドーピング・セミナー（以下、「国際セミナー）」を開催いたしました。本セミナーは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本政府によるレガシー事業「スポーツを通じた国際貢献事業／SPORT FOR TOMORROW（SFT）*1」の一環として、世界アンチ・ドーピング機構（以下、「WADA」）、スポーツ庁共催のもと実施しております。



本国際セミナーは、世界のアンチ・ドーピング・ムーブメント促進および、アジア・オセアニア地域のアンチ・ドーピング活動の発展途上である国の支援を目的としたものです。31ヶ国50名のアンチ・ドーピング担当者が参加し、1) 2021年に改訂される世界アンチ・ドーピング規程と国際基準、2) クリーンなスポーツへのアスリートの関わり、3) SPORT FOR TOMORROWを通じたレガシー創出の取組について講演や意見交換を行いました。

■ WADAとスポーツ庁の覚書締結

クレイグ・リーディーWADA会長と、スポーツ庁鈴木大地長官によって、クリーンなスポーツの発展のための連携に関する覚書が締結されました。2015年10月にWADAとスポーツ庁の間で結ばれた調印を引き継ぐ形となる本覚書により、今後も継続的な連携を図っていくことが期待されます。



■ 世界アンチ・ドーピング規程と国際基準の改訂

世界アンチ・ドーピング規程と国際基準について、WADAの担当者より変更のポイントに関するプレゼンテーションがありました。また、事前に集めた参加者からの質問をもとにそれぞれの国際基準の分科会が実施され、実践に向けて、担当者がより具体的な内容についてディスカッションを行いました。



■ クリーンなスポーツへの、アスリートの関わり

開催両日にアスリートによるパネルディスカッションが行われ、2007年世界陸上（大阪）にポーランド代表として出場経験のある、次期WADA会長ヴィトールド・バンカ氏よりアンチ・ドーピング活動におけるアスリートの役割や、参画について提言がされました。WADA、IOC、アジアパラリンピック委員会、JADAを含めた各国アンチ・ドーピング機関において、アスリート委員として活動するアスリートから、具体的な活動内容や、アスリート同士の連携について発表があり、参加者からはとても興味深かったとコメントがありました。



■ SPORT FOR TOMORROWを通じたレガシー創出

JADAが行っているSPORT FOR TOMORROWの活動として、国際競技連盟との連携、教育パッケージの活用支援、i-PLAY TRUEリレーの展開についてプレゼンテーションを行いました。連携を行っている国際ホッケー連盟および日本ホッケー協会（*2）や、アジア・オセアニア地域の参加者から事例が紹介されています。



本国際セミナーでは、国や組織の文化や背景を超えて、アンチ・ドーピングにおけるアスリートの役割や、世界アンチ・ドーピング規程の改訂に関する最新の情報を共有することができました。
今後もJADAは、世界的なアンチ・ドーピング・ムーブメントの推進に貢献して参ります。

*1 “ SPORT FOR TOMORROW ”:

2014年から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する2020年までの7年間で開発途上国を始めとする100カ国・1000万人以上を対象に、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業。世界のよりよい未来をめざし、スポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントをあらゆる世代の人々に広げていく取組みです。

<https://www.sport4tomorrow.jp/jp/about/>

*2 “ 国際ホッケー連盟および日本ホッケー協会との連携 ”:

「2019年FIH女子シリーズ・ファイナルin広島」において、「クリーンでフェアなスポーツを創る」教育プログラムを実施しました。

参考：<https://www.playtruejapan.org/topics/2019/000398.html>

また、国際ホッケー連盟アスリート委員長のマーシャ・コックスのインタビューをJADAで実施し、国際ホッケー連盟、日本ホッケー協会と連携して、主に若いアスリートを対象に世界的な展開を行っています。

参考：https://www.playtrue2020-sp4t.jp/ptrelay/jp/interview/12_marsha/